

平成 28 年度 第 2 回 富里市子ども・子育て会議 議事録

1. 日 時 平成 28 年 8 月 23 日 (火) 13 時 00 分～14 時 46 分
2. 場 所 富里市役所 すこやかセンター2 階会議室 1
3. 出席者 荒野峰之委員、大木みわ委員、宮川朱実委員、横山智志江委員、高嶋理恵委員
渡邊薫委員、勝又千恵子委員、龍岡達子委員、中島耕一委員、越野記代子委員
渡邊由美子委員
(欠席者) 藤崎武彦委員、荒居久子委員、西澤譲一委員
4. 傍聴人 0 名
5. 議 題
 - (1) 富里市子ども・子育て支援事業計画について
 - (2) 富里市立認定子ども園保育・教育計画 (案) について

6. 会議の経過

事務局：本日は、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。

会議に先立ちまして、藤崎委員、荒居委員、西澤委員が欠席となっておりますが、14 人中 11 人の委員の方々に御出席いただいておりますので、富里市子ども・子育て会議条例第 6 条第 2 項により、本日の会議は成立しておりますことを御報告申し上げます。

会議を開会する前に、新たな委員の方々が出席されていますので、自己紹介をお願いしたいと思います。まず、青空保育園園長の越野様よろしく願いいたします。

【越野様あいさつ】

ありがとうございました。続きまして、千葉県ヤクルト販売株式会社渡邊様よろしく願いいたします。

【渡邊様あいさつ】

ありがとうございました。

それでは、ただいまより、平成 28 年度第 2 回富里市子ども・子育て会議を開会いたします。まず、会長に御挨拶いただきたいと思います。龍岡会長よろしく願いいたします。

会 長：皆様こんにちは。今回は、株式会社の認可保育所に係る事項の検討と子ども子育て環境整備工事の進捗状況についての説明でした。待機児童について、東京都でもまた増えてきてしまっているという新聞記事がありました。東京都知事選挙の争点でもありましたが、富里市においても重大な問題であり、保育の質を下げずに待機児童の解消を図ることが目標ですから、葉山や向台の認定子ども園化に向けた取組が一番気になるところであると思います。そ

の議題も今回あるようなので、御意見いただければと思います。

それでは、改めまして、今日は平成28年度の第2回目の会議となります。

本日の議題は、「富里市子ども・子育て支援事業計画について」「富里市立認定子ども園保育・教育計画（案）について」の内容となります。皆様の忌憚のない御意見をいただきながら進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

事務局：ありがとうございました。

それでは、富里市子ども・子育て会議条例第6条第1項により、会議の議長を会長にお願いしたいと思います。龍岡会長よろしくお願いいたします。

会長：それでは、議題に入らせていただきます。本日の議題は、お手元の資料にございますとおり2件でございます。最初に議題（1）「富里市子ども・子育て支援事業計画について」事務局より説明願います。

【事務局から説明】

会長：「富里市子ども・子育て支援事業計画について」葉山保育園の認定子ども園化の時期を早めるということと認定子ども園開園にあたり定員の説明がございましたが、御意見御質問はございますでしょうか。

委員：葉山保育園の認定子ども園化を早めるということで、早めるには普通とても困難なことがたくさんあると思いますが、どこかで無理や苦勞をしないと早めることは難しいと思うが、どのあたりを工夫なされるとそれが可能になるのか教えていただきたい。

事務局：ただいまの御質問についてお答えいたします。平成27年度に計画書が完成いたしましたして、その1年前から施設整備については準備を進めてきましたが、建設を担当している課ではありませんでした。それにつきましては、市の担当各課である建設課や都市計画課、向台につきましては教育委員会も含めすべての関係各課で意見を出してまいりました。その中で建設工事を進めまして、こども館の建設につきましては、9月末をもって完了いたします。そして、環境整備として葉山公園の移転と駐車場や歩道の整備も行っております。この後、子ども課にて葉山保育園の改修を行います。建設につきましては、関係各課で協力して進めてきたところでございます。運営につきましては、認定子ども園になるにあたり、先生方の資格の問題もございました。研修等も参加し、すべての先生が保育士・幼稚園教諭の資格の更新を完了いたしました。また、認定子ども園化に伴いまして、保育・教育計画を整える必要がございます。富里市の公立幼稚園3園と葉山保育園保育士や子育て支援センターの職員も関わりまして富里市独自の保育・教育計画を作成しているところでご

ざいます。

委員：現場からの意見ですが、子育て支援課・子ども課がすごいなと思ったのは、幼稚園の先生方が保育園に行って研修を行っています。なかなかできないことだなと思い、職員を育てていこうという気持ちがよくわかりました。計画が早まりましたので、職員の育成が大事であると思いました。もう一点は、このあとの議題にもございます保育・教育計画ですが、子どもの成長を一本の木に例えるのであれば、就学前の子どもたちの根っこの部分を作るようなすごく大事な時期だと思えます。それを認定子ども園開設にあたってこのようなものが形になってきたことはすごいことだなと思えます。実際に、子ども課・子育て支援課から何度も案を見せていただき、協議してきました。だんだん内容も濃くなってきて、これがあれば両園やるべきことはきちんと子どもたちと向かい合っているのではないかと考えております。これからも検討して、何とか4月にみんながわかるようにするには本年度中に完成した時点で職員の研修をやらないといけないかなと考えております。本当に頑張っていたことは現場のものとしてよくわかります。以上です。

委員：この平成30年度に認定子ども園化しますというところを前倒しされたわけですが、子ども・子育て会議でも前倒しすることは非常に良いことだと思っております。私は、葉山保育園の保護者でもあります。保護者側としても大変ありがたいです。この資料にもございますが、待機児童がいて、保育園の保護者の間でも子育てに関する悩み、子どもを預ける手段が少ないことは前から悩んでいたことでもあります。見直しについては賛成ですので進めていただきたいと思えます。

会長：待機児童の状況はどうなるのでしょうか。

事務局：待機児童については年々増えている状況で、今年度についてはこれまでにない急増の状況です。今後も3月までに生まれるお子さんもいますので、さらに増えるものと思えます。平成29年度の2園の認定子ども園化による定員増と、前回の会議で協議いただいた株式会社の保育事業もございますが、現在の状況をみますと待機児童0として進めてきたところですが、未満児の待機児童については対応しきれない状況となってきております。今後も、企業主導型など保育の受け皿づくりの取り組みについては進めていきたいと思えます。

委員：楽になるからということで安易に預けている方もいるのではないかとすることもあります。0歳から5歳というのは子どもにとっても大事な時期だと思えますが、親も成長する大切な時期だと思えます。ただ国が定員を増やせと言っているから、増やすのではなくて、いろいろなことを考えながらやっていかなければならない時代なんだと感じています。数字だけでなく、保育園

の先生の負担のことや預ける親のことも考えて、親の質も上がっていくことが必要なのではないかと思います。

事務局：どうやって子どもを育てていけばいいのか近くに相談する人がいなかったり、夫婦と子どもだけという家庭が増えていて、子どもを育てる力、誰かに相談する力が薄れている家庭が増えているように感じます。子どもを育てる親の力をつけてあげたいという思いで、子育ての包括的な支援の場としてこども館を建設しています。子どもと一緒にいられる時間の大切さに気づいて欲しいという思いもあります。保育・教育の内容の充実はもちろんですが、今回の認定子ども園化では支援センターの充実も掲げていて、親子同士の関わりをもてて、子どもとしっかり向き合えるようにしたいと思い、力を入れていきたいと思っています。

委員：認定子ども園は、単時間でよい人と、長時間必要な人のニーズによって使い分けられるのがすごく良いことだと思います。地域の幼稚園・保育園が公立に学び、切磋琢磨してもらいたいなと感じました。

委員：先ほど保護者のお話がありましたが、富里では待機児童解消のために行政が一生懸命動いてくれるので、利用者側が過保護になっている感があります。子ども園になるにあたって、いろいろなニーズに対していろいろな利用の仕方が出来るようになるのは良いことだと思います。保護者の意識という面で、葉山保育園でお父さん会をつくって少しでも保育園に貢献しようということで活動しています。また、子ども園になるにあたって、保護者の意識をもう一步改革できないかということで、向台と葉山の代表が出て話し合いを行っているところです。保護者の意識を変えていけたらと思っています。

委員：ファミリーサポートセンターでは、利用件数を増やしたいということはありませんが、利用される方には子育てはまずは家庭が主になってください。そこで出来ない部分をファミリーサポートセンターで手伝いますというスタンスでやらせていただいています。受け皿がたくさん出来ることは良いことだと思いますが、企業も子育ての制度を良くしていくことや、親も苦労はありますが、子どもの成長を見て、自ら解決をしていくことも必要ですので、そういった親への協力という点も進めていただければと思います。また、子ども園に変わるにあたって、親が不便だと感じている点も意見を聞きながら改善していただければと思います。

事務局：保護者の就労の状況につきましては、入園当初に確認させていただいておりますが、今年度は開園に向けて、就労の状況の確認について子ども課でしっかりと取り組んでいるところです。親が不便だと感じている点につきましては、私立につきましては、園の方針等があるとは思いますが、園長会議等々で対応についてお願いをしていきたいと思っています。保育士の確保につきまし

ては、全国的に保育士不足です。成田市では特区として、成田市以外で働けないという保育士の制度を取り入れたことで、隣接した富里では難しい状況もございますが、開園に向けては正職員の保育士の採用も予定しておりますし、臨時保育士、非常勤保育士をさまざまな方法で募集をしていきたいと思っております。年度当初から子ども課で動いております。

委員：小中高の教師をしてきましたが、義務教育と高校教育では教育の視点が大きく違っていたことを感じて苦勞しましたが、子ども園になるにあたっては、保育と教育が一緒になることで先生方は同じような苦勞があるのではないかと思います。一度や二度の研修では難しいと思いますので、人事交流をもっと行ってお互いの立場や見方を変えていかないといけないのではないかと思います。うまく行ってほしいと思います。

事務局：この後、保育教育計画（案）のご説明をさせていただきますが、ご心配いただいている幼稚園と保育園をつないでいくことについてですが、すべての保育士、教諭が参加し、昨年4月からスタートした準備会議で、それぞれ役割分担を持ちまして1年半かけてこの保育教育計画を整えました。その中で、やはり幼稚園の考え方、保育園の考え方というものがございましたが、今回富里市で考えている子育て支援まで含めた計画にしていこうということで、毎日のように協議を進めてまいりました。富里市の持つ一人ひとりの子どもに寄り添うというところを大切に、小学校へつないでいくということを念頭に、小学校に上がった時に、どこの園へ通った子も同じく元気よくいきいきと登校できるように小学校の先生のご意見も伺いながら整えてまいりました。今後進めていくうちにさらに良くなる点があれば取り入れていきたいと思っております。また、職員については、これまで両方の資格をもった者を採用してきておりますし、葉山保育園には幼稚園に勤務していた者、向台幼稚園にも葉山保育園で勤務していた者をすでに配置しており、幼稚園と保育のそれぞれの役割分担をしっかり持ったうえで進めていきたいと思っております。

事務局：加えてご説明させていただきます。幼稚園教諭と保育士の関係でございますが、この4月から担当となりましたが、当初は大変だっただろうと感じていましたが、その後一人ひとりと面談を行っていくうちに、だんだん意識が変わっていくことを感じました。もっと隔たりがあるものだと思っておりましたが、市の事業としてやっていくんだという、そこで働いているんだという意識が感じられましたのでお伝えさせていただきます。

会長：その他何か御意見ございますでしょうか。無いようであれば次の議題に進みたいと思っております。議題（2）「富里市立認定子ども園保育・教育計画（案）について」事務局より説明をお願いします。

【事務局から説明】

会 長：「富里市立認定子ども園保育・教育計画（案）について」説明がありましたが、御意見御質問はございますでしょうか。

委 員：1年半ベストメンバーでこれだけのものを作り上げてきた御苦勞がしみじみと伝わってきます。目標そのものは、何十年も前から教育については最終的には生きる力、保育はやる気を起こすということです。3本の柱の心と体の元気と思いやりと考える力は長いこと言われていることです。その取組の手段がそれぞれ違うのと力を入れるところが違うというのが園の特徴になってきます。幼稚園の教育要領を改定しまして保育園の保育指針に内容を近づけ、保育園の保育指針を改定して教育を全面に打ち出せるような指針に変えてきました。お互いに歩みよったわけですが、厚生労働省と文部科学省で所管が違うので協同し合うことは昔から課題でありましたが、それを非常にうまくやったと感じました。今、新たに保育士と幼稚園教諭と両方の資格をもっている人と保育士の資格しかない人といのですが、5年間計画で保育士の資格しかない人については、講習を受けて幼稚園教育の資格を与えましょうというような制度ができて、認定子ども園で働く保育士は保育教諭という名前を使用するという発想がでています。どちらの資格も活かせるということと、保育園でずっと働いていた人と幼稚園でずっと働いていた人とでは温度差がありまして、何か一緒に行っても幼稚園の先生の方が上で保育園の先生が下というイメージがずっとあるんですけど、富里市の中には幼児教育研究会が全国に例をみない組織で、幼稚園の先生と保育園の先生と一緒に幼児教育について研究する仕組みがあります。認定子ども園をやっていく中で少しきっかけや土台作りがしやすかったのではないかと感じております。教育と保育というと必要な人に必要なだけのサービスを提供できることが、質の高い福祉になってくると思うんですけど、これだけまとめてもらったのでこれを一般の職員に理解してもらい、そして同じ気持ちで同じ方向を向いて仕事をしていくことがこれからの課題かなと思います。今回の計画が完成ではなくて、たたき台というつもりでより良い認定子ども園を作り上げていただきたいと思えます。

委 員：私の同僚でこの4月に認定子ども園の園長になった方がいます。それは、保育園と幼稚園の経営者がもともと一緒のところ、合わせて認定をとってしまった。昨日、私が園長の話聞く立場で話をしたところ、認定子ども園に対する理想をもちすぎてしまって疲れ切ってしまった。保育園と幼稚園の園長クラスの方達を両方副園長として配置してしまっている。両方とも今までこれでやってきたというプライドがあるので、なかなか難しいこともあ

と思います。現実には、1人の子どもがいて、その子どもにこの場面で一番良いのはなんだろうかというのが大事である。子ども一人一人が違うというのは、保育園とか幼稚園ではなくて、この子はどんな家に生まれて、どのような親に育てられてきているのか、園に来ている時にどの立場の人が近くで関わるのが一番良いのか、ここで一步踏み出せば乗り越えられる子どもがいると思うので、そこを見極められる見る力のようなものがどの先生にも必要になってきて、今まで通りのように経験だけで対応していくとケンカになるけど、目の前の子どもに対して具体的にその子の身になって考えていくと割と答えはでてくると思います。いつおむつを取るのかだっってその子の事情があります。一律に決められないものをもっている子どもをはじめの目でお互いに見たら保育を長くやられてた方は、こうするとうまくいったよというのがあり、そこから幼稚園の方は学ぶこともあると思います。そういうことが大事だと思います。行政の人が、地区ごとに妊娠何か月の人がいるとか細かく把握しているところはないと思います。一人一人をきちんとわかっていて大事にしようとする気持ちがあってできることで、他の市ではまねできないことだと思います。一人一人の子どもをきちんと見る人を大事にしてほしいと思います。子どもはお母さんに育てられるわけでもなく、だけど自分一人では育たない。どうやって人間になっていくのかといったら同じ背丈の子どもたちの中で育つんです。兄弟もいない、近所に子どももない時代を迎えているので、子どもはなるべく早くに同じ背丈の子どもたちの中に入れてあげるとそこからたくさん学んで育っていくので、一対一で育てるのが贅沢で保育園に預けるのは不幸だというイメージがどこかにあるんです。それは、昔のことで今の子育ては違います。お母さんたちも幸せになってほしいし、子どもたちも同じ子どもたちの中で、幼児教育のトレーニングを受けた先生方はプロです。お母さんたちは、プロではないので、イライラしながら泣きながら子育てしているのは幸せな状態ではないと思います。富里市にみんなが幸せな状態で子どもを育てる環境が今でき始めていると思います。

委員：これから先の教育について、以前委員の方からもありましたが、質の高い教育・保育というのはどういうことっていうのが漠然としていてわかりづらいというのがありますが、経営方針や理念や目標は大事なんだけれども、私立だったらトップの人がうちの園はこうしていくとかこういう方法で子どもたちに接していくなど決めて進めていって良いと思うが、公立の場合は少し様子が変わってくると思います。今、富里小で評議委員をやっていて1年生～6年生まで各クラス全部見て、運動会や行事にも参加しています。そうすると小学校の全体が見えてきて、保護者ではなくて第三者のような視点でみることができ、校長先生からこのクラスは今こうなんですなど教育現場の生の

声を聞くことができるんです。今、葉山保育園には第3者のような機関がありません。この機会にできれば富里市の子ども園として向台と葉山の両園について、いろいろ提案したり、相談したりできる評議会というものをつくるのはどうかと提案しているのですが、このような第3者のような機関があれば漠然としたものも形を帯びてくるのかなと思います。富里市オリジナルの子ども園の運営の仕方を最初は手探りになると思いますが、形にしていけるようにみんなで作っていけば良いのではないかと思います。

会 長：他に御意見等ございますでしょうか。特にないようでしたら、本日のすべての議題は終了しましたので、これにて議事を終了し、事務局にお返しします。

事務局：ありがとうございました。その他みなさまから何かございますでしょうか。特にないようでしたら、事務局より2点御報告させていただきます。

事務局：それでは、「株式会社による認可保育所の設置の進捗状況について」と「子ども・子育て環境整備工事の進捗状況について」御報告させていただきます。

【事務局から説明】

事務局：みなさま長時間おつかれさまでした。みなさまから何かございますでしょうか。それでは、次回の会議につきましては、日程が決まり次第、改めて御案内させていただきますのでよろしくお願いいたします。以上をもちまして、平成28年度第2回富里市子ども・子育て会議を終了とさせていただきます。ありがとうございました。